（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和７年度　学校自己評価システムシート（県立川越総合高等学校）

目指す学校像	多様な学習ニーズに応える学校　～農・食・生活・環境の特性を活かす総合学科～

重点目標	
	１　学びの基盤となる力を育み、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けさせる。 ２　基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、主体的に人生を切り拓いていける実行力を身に付けさせる。 ３　自己理解と探究学習を充実させ、夢の実現につながる進路決定をさせる。 ４　地域と連携した学習活動を推進し、新たな価値を創造する力を身に付けさせる。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 一定水準以上の基礎学力はあるが、家庭学習の時間は十分とはいえない。学習意欲にばらつきがあり、特に苦手分野に対して敬遠する傾向がある。 【課題】 生徒たちが主体的に学び続けられるようにするためには、どのような授業が必要かという点で学校全体で授業研究を進める必要がある。その際には、ICT機器の活用も含めて探究的な要素を授業内に取り入れることも視野にいれる。	・基礎学力の定着を目指して授業研究を行い、授業に対する満足度の向上も目指す	①授業公開・授業観察等を実施し、授業力の向上、ならびに授業内容のレベルアップを図る。 ②シラバスを活用した科目選択の充実を図る。 ③授業内容（進度やICT機器の活用・分かりやすさなど）に関する調査（アンケート）を実施する。	①授業公開や授業観察等を実施したか。 ②シラバスを有効活用し、個別最適な学びのため、生徒が理解し、生徒が納得のできる科目選択ができたか。 ③授業改善に関する調査を年２回実施し生徒満足度の向上を図れたか。（アンケート）				
2	【現状】 安心・安全な教育環境の下、学校全体で挨拶を励行し、明るくより良い人間関係づくりに向け取り組んでいる。また、生徒の自主自律を育み、豊かな学校生活のために生徒が主体的に生徒会活動を実施している。 【課題】 教職員の共通認識と統一した指導体制の構築を図る必要がある。また、生徒主体で各行事を企画、運営するために教職員間の連携と生徒へのサポート体制をさらに深める必要がある。	・豊かな心の育成と教職員の組織的な生徒指導による社会性の育成	①該当生徒と関係部署の緊密な連携、または、外部機関の活用。 ②基本的生活習慣を確立させるため学年、生徒指導部の有機的な連携による組織的な指導を実施する。	①学校全体で情報の共有や支援体制の構築が適切にできたか。 ② 遅刻者数減少ため、きめ細かい組織的な指導が行えたか。				
		・生徒の自主自立を育む学校生活の満足度の向上	①生徒会生徒の計画的な話し合いの場を設定する。 ②資格取得指導の充実とＦＦＪ活動の案内指導を実施する。	①生徒会本部会、委員会等が計画的に行われたか。 ②各種試験、活動への合格者数、参加者数の増加。（対R6比）				
3	【現状】 大半の生徒は、進路指導計画に沿って進路先を決定していく努力ができている。進路指導に係る生徒満足は91%(R6)と高い。 【課題】 進路決定には社会情勢が反映しやすく、時勢に合わせた柔軟さも求められる。そのためにも、検定試験や資格取得の奨励を１年次より継続して行う必要がある。	・キャリア教育の指導体制充実による生徒の進路意識の向上	①1学年「産業社会と人間」2,3学年「探究活動」の授業を通した自己理解のための授業改善を図る。 ②農務部を中心とした体験的教育活動を継続する。 ③専門資格等取得表彰制度担当や図書館機能を活用し、検定試験や資格取得を奨励する。	①探究活動における生徒・教員の満足度をもって分析する。（アンケート） ②体験的教育に係る生徒の満足度をもって分析する。（アンケート） ③各種資格検定取得者数の向上。（対R6比）				
4	【現状】 地域等で農産物販売を行ったり、野菜の新温室や飼育の新鶏舎を元に、商品開発を含めた地域連携や地域の特産品づくりを行ったりしている。また、川越市の人権の花運動や緑化ボランティアで地域貢献を果たしている。 【課題】 本校の情報提供や学校説明会等の充実は図られているが、地域と協力した農業教育が人材育成の推進に十分に至っていない。地域に根差した農業教育が求められる。	・地域と協力した、より充実した農業教育の推進	①ボランティア活動や地域連携による商品開発の実践など行い体験的な教育機会を提供する。 ②HP構成や更新方法を見直して、手続きの簡素化を図り教育内容を周知する。 ③総会の参加者数と委任状提出数を上昇させ、P後会の機能的・効果的な運営を進める。	①地域と協力・連携した活動を行い、地域貢献に繋げる事が出来たか。（各種県指定事業等含む） ②ホームページによる情報発信数の向上（対R6比） ③PTA・後援会主催の後援会が実施できたか。				